

NISHINOMIYA EBISU

西宮 えびす

平成二十九年 夏号

★特別インタビュー 元ラグビー日本代表

大畑大介さん

えびす地名調査

- 全国のえびす像
- 文化研究所だより ⑩
- 社頭より

特別インタビュー

元ラグビー
日本代表

大畑大介さん

「為せば成る！」現役時代、
アキレス腱断絶という

試練のなか、

不屈の精神で代表試合トライ数

世界新記録(69トライ)を樹立。

日本人として史上二人目の

ワールドラグビー殿堂入りを

果たされた大畑大介さん。

一方、家庭では

二人の子供の父として、

子育て育児・教育にも

お力を発揮され、

平成二十三年度には

理想の父親に贈られる

「ベストファーザー in 関西」を

受賞されました。

大阪のご出身で

神戸製鋼でのプレイ経験、

そして現在は

兵庫県内にお住まいと、

阪神間とのご縁が深い

大畑大介さんをお招きし、

お話を伺いました。

Daisuke Ohata Interview

平成10年神戸製鋼に入社。

日本のトライゲッター、エースとして活躍し、

平成11年・15年のワールド

カップには日本代表として出場。

平成23年に現役引退後はラグビーの普及や

ラグビーを通じた人材育成に尽力。

平成28年11月、日本人として

史上二人目となる

ワールドラグビー殿堂入りを果たす。

一西宮神社・えべっさんの印象

神戸に住んでいた頃から、十日えびすの時に福男をめざして走る神社として有名でしたから、関西でも非常に印象深い神社ですね。

結婚してからは家も近いので、なにかの折にはお参りさせて頂くと思っています。子供を連れての初詣のついでに露店でいろいろ食べたりするのも楽しみの一つですね。

子供の七五三でお参りに来させて頂いた時も境内で写真を撮って思い出づくりをしたり、節目節目にお参りをさせて頂いています。家族の思い出の二ページの場所ですね。

実家が大阪で自営業をしていますのでえべっさんといえば商売の神様のイメージが強いですね。父がえべっさんの笹を店に置いていたのを記憶しています。



一子供の頃、そして現役時代の神社の思い出

子供の頃は大阪の街中で育ったので、まわりに自然が無かったですね。神社は自然も多くて、お祭りや縁日にはよく遊びに行きました。家族や友達も大勢集まるので、みんなが元気になれる瞬間でしたね。

現役時代には遠征に行った先ではお守をもらったり、お正月にケガなくシーズンを過ごせるようにお祈りしたりしました。心を新たにしてこの一年がんばって頂くことを祈りましたね。



勝負の神様 沖恵美酒神社にて



父親として、 子育ての秘訣

子供の事をしっかりと見てあげる事ですね。ちゃんと見てあげないと変化を感じる事ができないじゃないですか。子供が大きくなるにつれ距離は出てくるかもしれないのですが、変化をしっかりとらえてあげて、なにかあれば寄り添ってあげる距離間を保つ事が大切でしょうね。

反面、子供に注意する事が自分にも当てはまる事が多いと思うんです。子供を叱りつつ、自分を見つめ直して「自分もちゃんとしな」といけないな」と思う事もありますね。

人として親は子供より長く生きていますが、「父親」としては同級生じゃないですか。子供が三年生なら、僕は親として三年生。常に勉強していききたいですね。

大畑さんにとって 神社とは

人生の節目節目で足を運ばせてもらって子供の成長をお願いし

たりと、お願いを通じて自分の気持ちを出せる場所じゃないでしょうか。

西宮神社には子供の七五三でお参りしましたけど、何年か経ってお参りした時には思い出を振り返る事ができる、不変であって僕たちの記憶の中にはなくてはならない場所ですね。

自分も子供の時には親に連れられて七五三で神社にお参りました。今は自分の子供の七五三でお参りして、いずれ孫ができればまた七五三でお参りさせて頂く事になると思います。親から子へ、子から孫へとお参りを通じて繋がる事ができるのも神社があつてこそだと思えますね。

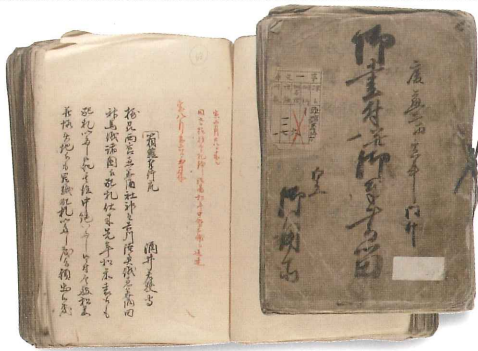
● ●
こういう風習はなかなか海外にはないので、日本人で良かったなと思いますね。

現在、二年後に迫ったラグビーワールドカップ(日本開催)の成功と、五輪種目となった7人制ラグビーの特に女子選手の強化・発展を目指し、尽力される大畑大介さん。今後のますますのご活躍をお祈り致します。

文化研究所だより (十)

本年三月に、江戸時代のえびす御神影札(えびす様の絵札)頒布の実態を示す古文書を翻刻掲載した『近世諸国えびす御神影札頒布関係史料集』第二巻を刊行しました。当社神職・筆者が研究者の方々に「教示を頂きながら各地の博物館・文書館や個人宅などを訪れて収集したものです。所蔵者の方がわざわざ遠方よりお持ちくださったものもあり、約三百五十点の史料を掲載しております。貴重な史料の掲載をご許可頂いた所蔵者や関係機関の皆さまにこの場をかりてお礼申し上げます。

さて、本号ではこの本のなかから一点の史料を紹介したいと思います。江戸時代の西宮神社は徳川幕府から全国におけるえびす御神影札の独占的頒布権を認め



【写真】「御書付并御奉書留」表紙・63件目(北海道立文書館所蔵)

られていたが、実際に北はどの辺りにまで配札を行っていたと思われ
ますか? この点がつぎの史料から明らかとなりました。(史料は読み下し)

摂州西宮恵美酒社神主吉川陸奥儀、恵美酒・田・神馬儀諸国へ配札仕り来たり、先年松前表へも配札いたし候処、その後中絶いたし候に

つき、今般松前ならびに蝦夷地へも罷り越し配札いたしたき旨願ひ出候処、右は諸国・躰に配札仕り来たり候儀にもこれ有り苦しからざる哉につき、願ひの通り承り届け、尤も相対次第にいたし、押し配らざる様致すべき旨申し渡すべく候あいだ、右配札いたして社人共等罷り越し候て、紛敷ものにはこれ無く候あいだ、右の趣御支配所は勿論、かの地領分又は御預所等これ有る諸家の向きへ御達し方の儀も各方向にて御取り計らいこれ有り候様致したく、尤も弥承り届け候上猶又御達しに及ぶべく候らえども、兼てこの段御掛合に及び候

寅五月

これは、慶応二年(一八六六)の「御書付并御奉書留(北海道立文書館所蔵箱館奉行所文書、写真参照)」に記載されていたもので、御神影札配札についての幕府寺社奉行から箱館奉行衆への内々の交渉です。内容は「摂州西宮恵美酒社神主吉川陸奥(西宮神社五十一代神主吉井陸奥守良郷)から幕府寺社奉行へ、これ以前に松前にて御神影札を配札していたが、その後絶えてしまっており、今回松前のみならず蝦夷地をも対象に配札を行いたき旨を出願してきている。寺社奉行側としては問題ないと思っており許可する予定であるが、配札社人の蝦夷地巡廻などを始め、この一件については箱館奉行所管下はもちろん、蝦夷地に領地・預所のある諸家に対しても、通達にあたっては箱館奉行所のほうで取り計らってもらいたい」ということが記されています。ここから、少なくとも慶応二年

以前の段階において松前にて配札が行われていたこと、また、同年以降に松前のみならず蝦夷地を対象に配札が許可された可能性が指摘できます。

ただ、ここで北海道を北限とするのは早計です。史料の表紙には「御書付并御奉書 白主御用所」とあります。すなわち、これは白主御用所にて保管されていたと考えられます。「白主」はシラスシと読み、樺太南端の地名です。同所には箱館奉行所御用所が設置されていました。同じ内容の史料が「東富内御用所」の御用留からも確認できます。「東富内」は東トシナイと読み、同じく樺太南東の地名です。ここにも御用所が設置されていました。これらから考えられることは、樺太にまで配札を行う可能性があったのではないかと、いうことです。

いずれも箱館奉行所からの通達をそのまま書き留めただけ、さらにはこの直後に明治維新を迎えたため沙汰やみとなった、などの可能性はもちろんありますが、当時蝦夷地といえは樺太も含まれており、また箱館奉行所の管轄であり、現に通達が行き届いていることを考えると、樺太での配札の可能性も捨てきれません。ロシア領の今となつては現地調査を行いその足跡を辿ることも困難ですが、宗谷海峡を渡り極寒の地での配札を試みたえびす願人もあるいは存在していたのかもしれない。

(一)遠国奉行の一つで、基本的に定員二名。享和二年(一八〇二)設置のち一時廃止。嘉永七年(一八五四)、日米和親条約による箱館開港後再置。慶応四年(明治元年・一八六八)まで。欧米諸国との応接や蝦夷地の行政を管掌する。慶応二年五月当時の場所は五枝郵便、奉行は小出秀実・杉浦勝勝、奉行並として新藤紹蔵。

(西宮神社文化研究所主任研究員 松本和明)

○「えびす地名」調査報告

前号にて告知しましたとおり、ただいま当社では全国に点在する

「えびす」「ひるこ」「にしのみや(にしみや)」と読める

地名「えびす地名」の蒐集を進めております。

職員分担にて各地の調査を進めるとともに

社頭にてご提供頂いた情報をまとめましたところ

三三八件となりました(平成二十九年五月現在)。

本号ではその成果の一部を紹介致します。

○えびす地名調査の方針

■採用基準

- 住所表示に用いる市町村名
大字・小字などの類
- 島や川などの自然地形の名称
- 道路や橋、駅名など交通拠点の名称
- その他史跡や公園の名称



○**恵比須**
(稚内市)
最北端のえびす地名

○**恵比須**
トンネル
(雨竜郡沼田町)

○**夷堂**
(上北郡七戸町)

○**恵比須森**
(八幡平市)

○**恵比寿島**
(宮城郡松島町)

○**西宮町**
(足利市)
同町に鎮座する足利西宮神社は
慶長八年の分霊と伝わる。



○**恵比須運河**
(横浜市鶴見区・
神奈川区)

○**エビスマ原**
うみがしら
(大町市平)

○**西之宮**
(南巨摩郡早川
町)

○**草薙えびす公園**
(静岡市清水区草薙)



○**恵比寿駅**
(渋谷区恵比寿南)

エビスビールを製造をしていた日本麦酒醸造会社(現在のサッポロビールの)ビール出荷専用の貨物駅として設けられた。



○情報提供のお願い
 当社では引き続き「えびす地名」の
 情報提供を受け付けております。
 崇敬者皆様のお住まいの土地に伝
 わるえびす地名、また現在は消失
 してしまったえびす地名などの情
 報もお待ち致しております。

○えびす通り
 (那覇市牧志)
 最南端の
 えびす地名

○エビス
 大黒ノ頭
 (みなかみ町・湯沢町境)

○北狄
 (佐渡市)

○ひろこ峠
 (上越市・
 飯山市境)

○恵比須ヶ崎
 (輪島市小池町)

○恵美須池
 (東近江市池之尻町)

○えびす町
 (中津川市)
 同町に鎮座す
 る中津川西宮
 神社は明治二
 十八年の分霊。

○戎橋

(大阪市中央区道頓堀)
 名の由来は今
 宮戎社への参
 道だったとも、
 かつて西宮の
 戎願人がこの
 橋の詰で御神
 影を配札して
 いたからとも
 いわれる。



○蛭子山古墳
 (与謝郡与謝野町)

○蛭子免
 (小松島市大林町)

○夷山緑地
 (徳島市八万町)

○胡町
 (広島市中区)

○えびすヶ丘
 (益田市下本郷町)

○恵比須鼻
 (鹿屋市高須町)

○恵美須町
 (長崎市)

○西宮市

西宮とはもともと摂津国の廣田神社・
 南宮神社・夷社
 (現西宮神社)
 三社の総称で
 あった。由来は
 諸説あるが京
 から見て西に
 あるために名
 付けられたと
 もいわれる。
 えびす宮総本
 社西宮神社の
 鎮座地





境内よりこんと湧くご神水『鶴の泉』お水取り所



大前神社本社



日本一えびす様台座に鎮座する大前恵比寿神社

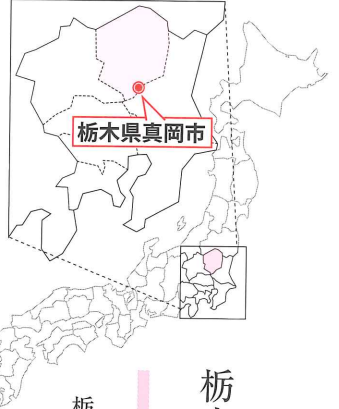


日本一えびす様



大勢の参拝者で賑わう恵比寿講祭

商売と漁の神えびすさま。庶民の厚い信仰により津々浦々にえびす像が祀られております。その多くは人の丈の半分ほどの像ですが、なかには見上げるほどの大身のえびす像も見ることが出来ます。今号では日本一大きいえびす像をご紹介します。



栃木県真岡市

栃木県真岡市 大前えびす

おお さき

栃木県真岡市に鎮座する延喜式内社大前神社。日本を代表する福の神、大己貴命(だいくさま)・事代主命(えびすさま)をお祀りする古社で創建以来千五百年、氏子崇敬者の崇敬の念を集めてきました。

かつて真岡では地域を挙げて恵比寿講祭が盛大に執り行われていましたが、いつの頃から神社の祭礼は途切れてしまいました。

時は下って昭和六十一年四月。昭和の文化財造替事業が見事に完遂した記念に、途切れていた祭礼の復興と充実を図ることになり、市内の若手企業家達と商店会連合会が呼応率先して「おおさき恵比寿講」を結成。昭和六十一年十二月十日には恵比寿祭が復興しました。

翌正月十日の初恵比寿講の祭礼時には、「もつと産業と商売の守護神である恵比寿様を崇拝し啓蒙すべきだ」という機運が高まり、真岡市をはじめ芳賀郡市を象徴する「日本一えびす様」を建立する事になりました。

関係者の努力のもと平成元年十二月九日、えびすさま本体が十三メートル、台座が七メートルの「日本一えびすさま」が完成。台座には本社大前神社の事代主命のご分霊と水の神弥都波能売神様をお祭りする大前恵比寿神社が鎮座しています。

細面のお優しい顔のえびすさま。胸には約五メートルの金の鯉を抱えています。これは昔から大前神社の神様のお使いが鯉だといわれているからです。

平成十二年、平成二十一年には「お色直し」され、その威容を復されました。



鯛えびす張子(香川県)



伊勢一刀彫えびす木像(三重県)



津屋崎えびす土人形(福岡県)

古来、日本の神様はお姿の見えないもの、また直接見てはいけないものとして考えられてきました。その考えは現在でも色濃く伝わり、各神社においてもご神像・ご神体は神殿の中にお祀りされ、直接見る事が許されないのが一般的です。

一方のえびすさまといえば右手に釣竿、左脇に鯛を抱えた烏帽子狩衣姿の男性神と広く知られ、また津々浦々のえびす社を覗けば、人目に触れるようにご神像がお祀りされている事が多々見受けれます。

かようにえびすさまは、お姿のよく知られた特異な神様といえるのです。

その特異性は、えびす信仰の全国伝播に寄与したとみられ、各地で地域色豊かなえびす像や、えびす面などが作られる事となりました。

本企画展では、全国各地で作られたえびすさまの表情豊かな像・面を中心に企画展示しています。

いつもニコニコと笑顔を絶やさないえびすさま。その笑顔はまさに「福」の神のご神徳の表れです。ご参拝のお帰りの際にはどうぞ展示室にお立ち寄りいただき、えびすさまの益々の「福」をお受け下さい。

平成29年8月31日まで開催
午前9時～午後4時まで

えびす信仰資料展示室第二十二回特別展示
福の神えびすさま

そのおすがたとお顔展

開催中



特大えびす面(長野県)



常滑焼えびす大国像(愛知県)



八橋土人形えびす大国像(秋田県)



夫婦えびす張子(群馬県)



社頭より

平成二十九年

こころもおなかも大満足！ とおかし

『とおかし』を
(十日のお菓子)
通じ西宮の
和菓子の
魅力を発信

四月

『えびす
大福』

あおやま菓匠



五月

『えべつさん・
鯛』

千鳥屋宗家



六月

『宝箱』

こはく



七月

『目出鯛
みかさ』

高山堂



八月

『えびす
金鰐』

谷矢製館



九月

御菓子司
昇月堂



『めで鯛・
米俵』

十月

『戎福栗』

君栄堂本舗



十二月

『境内・
鯛』

菓一條栄久堂吉宗



十二月

『えべつさん
の上用饅頭』

太平堂吉定



十二月

『福つみ』

富久屋菓子舗



三月

『えびす
舞』

成田家



毎月十日の十日まいりでは平成二十三年四月よりえびすさまにちなんだ和菓子「とおかし」を各月百数十名の参列者に授与してまいりました。

以来、平成二十五年度は当社のおまつりをテーマに、平成二十六年度には西宮八景をテーマに、さまざまなお菓子を授与してまいりましたが、本年二十九年度は「西宮和菓子ブランド発信実行委員会」加盟の和菓子店十二店の協力のもと、各店舗が新しく調製した「とおかし」を月替わりに奉納。合せて参列者に授与する事となりました。(百二十個限定)

今後一月を除く各月十日には各店舗の個性豊かな「とおかし」を参列者に授与してまいります。

「毎月十日はとおかしの日」。十日まいりを通じてえびすさまの福を皆様にお届けするとともに、西宮の和菓子の魅力を発信してまいります。

◎毎月十日には協力店舗において「とおかし」の販売を行っています。※各店舗が展開する「とおかし」のみ

いけばな嵯峨御流奉仕にて 献華祭齋行

嵯峨御流は千二百年前嵯峨天皇より起るい



けばなの流派で、旧嵯峨御所の大覚寺を本拠に全国各地で活動をされています。この度二月八日本殿にて京都・嵯峨御流の副総裁岡田脩克氏奉仕により献華祭を齋行し、ご神前に供しました。また十日えびすの間、神社会館ではご関係者の作品を展示。ご休憩に来られた参拝者の目を楽しませました。

当社「御社用日記」が 県重要文化財に指定



当社の歴代神主の記した日記『御社用日記』が昨年の西宮市指定重要文化財(古文書)指定に続き、本年三月二日に兵庫県的重要文化財にも指定されました。

単なる一神社の記録という枠を超え、江戸時代から近現代に至るまでの西宮の地域社会の実態を知る事ができる、第一次史料としての価値が県でも評価されたものといえるでしょう。

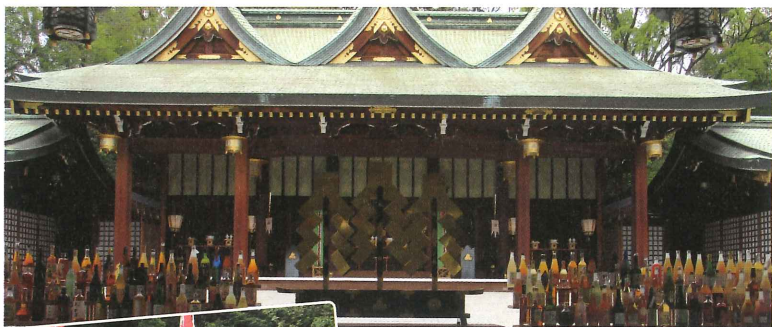
当社文化研究所におきましては現在も翻刻を進め現在三巻(元禄七年〜享保十二年分)まで刊行致しております。

●境内にて全国梅酒まつり開催

去る四月二十日〜二十三日、境内にて全国梅酒まつりが開催されました。

梅酒の魅力を全国に広めようと活動される一般社団法人梅酒研究会の主催によるもので当社での開催は昨年に引き続き二回目となりました。

開催に先立って二十日には本殿にて梅酒奉納

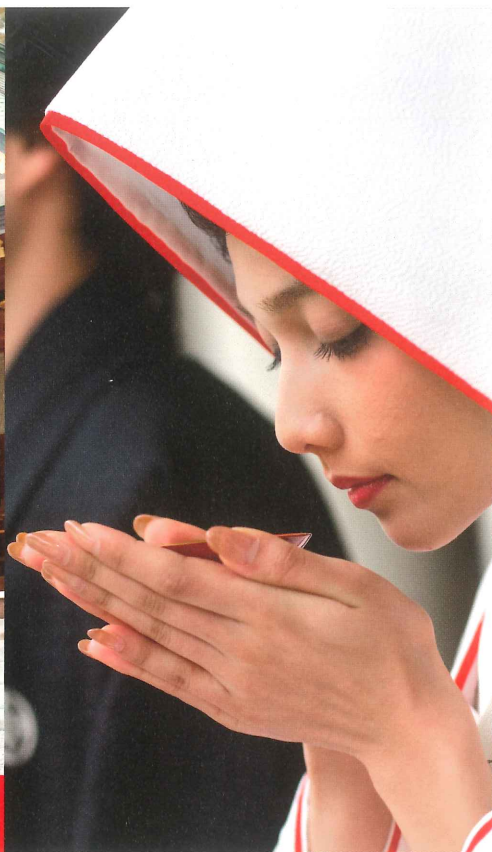


式を齋行。翌二十一日からは百五十種類を超える梅酒が日本各地から集まり会場は若い女性を中心に大勢の来場者で賑わいました。



サマーブライダルフェア
7月17日(祝)
10:00~18:00

賞味会 / 12:30
※要予約(有料)



西宮神社会館 西宮市社家町1-17 お電話(0798)23-3311
info@jinjyakaikan.com



海上をゆく渡御船団

西宮まつり(九月二十日~二十三日)
ご協賛のお願い

えびすさまが神戸の和田岬よりご出現されたとの伝承から和田岬鎮座の和田神社・三石神社へ参拝する産宮まいり(海上渡御祭)は「日本第一のまつり事」といわれ、古来連綿と執り行われてきましたが、織田信長の社領没収を受け中断を余儀なくされました。

およそ四百年後の平成十二年、阪神淡路大震災で傷ついた西宮の街の復興を祈つて西宮まつり協議会を発足し、会主導のもと西宮沖での海上

渡御を復興。続く平成十四年には和田岬への産宮まいりを再興し、今に至っております。

今後とも「日本第一のまつり事」西宮まつり渡御祭を盛大に執り行いたく、崇敬者の皆様のご協賛をお願い申し上げます。

【申込期限】九月二十日まで

一千元以上ご奉賛の方には渡御祭お守を、二万円以上ご奉賛の方には渡御祭お守と鯛絵皿を進呈致します。

ご協賛頂けますおりに当社まで二報下さい。

編集室から

ここに社報四十七号をお届け致します。

本年の春は急な雨や大風など、なにかと天候の落ち着かない日々が続いておりましたが、その雨水をばらんでか、今年の新緑は例年以上に瑞々しいように感じます。

恒例の太々神楽祭も滞りなく奉仕申し上げ、六月に入りますといよいよ夏の陽気となっております。

今号で紹介致しました通り毎月十日の十日まいり(中旬祭)には各和菓子店奉納の、えびすさまにちなんだお菓子「とおかし」を授与致します。また祭典後には、えびすさまの荒御魂をおまつりする境内社沖恵美酒神社にて、月次祭を斎行いたします。

十日まいりの折には沖恵美酒神社月次祭にもご参列頂き、和荒それぞれのご神徳をお受け下さい。

特設ホームページで西宮神社の最新情報をご覧ください。

西宮神社 公式サイト

検索

http://nishinomiya-ebisu.com



西宮神社
公式サイト
QRコード